

社会との関わり

IBM はさまざまな支援プログラムを通じて、環境をテーマについてさまざまな団体や個人との連携を図っています。

事業所によって異なりますが、IBM の地域社会支援プログラムは、オープン・ハウスや地元組織との緊急対応訓練から始まり、地域の環境プロジェクトや環境教育の取り組みに対する支援や参加にまで、多岐にわたっています。

IBM は多くの環境問題についても、社会問題への関心の高い多くの投資団体や環境 NGO(eNGO)、政府、従業員など対話を継続しています。この対話は価値のあるものです。対話によってアイデアを共有し、当社のプログラムや活動、成果についてフィードバックを得ることができます。

IBM のグローバル・イノベーション・アウトルック(Global Innovation Outlook: GIO)は、社会との関わりのもうひとつの例です。IBM はテクノロジーやビジネスの予測プロセスをオープンにし、一連のディープ・ダイブ(ブレインストーミング・セッション)にてさまざまな専門分野の外部の有識者の参加を仰ぐようになりました。2004 年に開始した GIO により新たなビジネス、テクノロジー、社会の動向に対する準備と協働したイノベーションを促進するためそれぞれの能力をどのように生かすかについて、さまざまな考察が得られました。

2008 年の GIO の二つの焦点は、気候変動の社会・経済との関係と逼迫する水の供給でした。水の GIO についてのレポートは、www.ibm.com/ibm/gio/water.html をご覧ください。

これまでに 5 大陸の数十カ国もの国々から 750 名以上のオピニオン・リーダーにお集まりいただき、55 回以上の GIO のディープ・ダイブが開かれています。GIO のすべての成果は、www.ibm.com/ibm/gio で公開されています。